



古代東アジアの造営体制に関する学術会議

科学研究費補助金 基盤研究B

「古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質」

第1回 国際学術会議

【日時】2019年1月12日 13:00～18:00

【場所】ソウル国立古宮博物館会議室（景福宮内）

プログラム：発表各30分（日本語・韓国語 逐次通訳有）

13:00～13:20 趣旨説明

海野 聡（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 准教授）

13:20～14:20 古代日本における造営体制と維持管理

海野 聡（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 准教授）

小休憩

14:30～15:30 韓半島における造営体制の概要（仮）

姜 賢（国立文化財研究所・安全防災研究室 学芸研究官）

15:30～16:30 古代中国における造営体制の概要（仮）

李 暉（奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー）

小休憩

16:45～17:05 コメント：韓 志晩（明知大学校・建築大学・建築学部、副教授）

17:05～18:00 総合討議

通訳：金碩顯（A&A文化研究所、学芸室長）・韓 志晩

【開催趣旨】

古代日本の造営体制や維持管理に関しては、文献資料から情報を抽出できることが明らかになっている。いっぽうで中国や韓半島の造営体制に関する情報は日本国内において十分に明らかではない。

そこで中国・韓国の造営体制について、先行研究の紹介から現在の研究状況を講演いただき、東アジアでの研究比較の第一歩としたい。特に中国については、建築技術書である营造法式（12世紀）は組織的な建設工程との関係が深いと推察され、この周辺の時代における造営体制も視野に総合討議を通して、東アジアにおける造営体制に関する研究の現状を共有し、相互理解を深めたい。

